

暗唱のすすめ 百人一首編⑬

六十一

いにしへの 奈良の都の 八重桜
けふ九重に にほひぬるかな



伊勢大輔

六十二

夜をこめて 鳥のそらねは はかるとも
よに逢坂の 関はゆるさじ



清少納言

六十三

今はただ 思ひ絶えなむ とばかりを
人づてならで 言ふよしもがな



左京大夫道雅

六十四

朝ぼらけ 宇治の川霧 たえだえに
あらはれわたる 瀬々の網代木



権中納言定頼

六十五

恨みわび ほさぬ袖だに あるものを
恋に朽ちなむ 名こそ惜しけれ



相模